

# 当行（単体ベース）の営業の概況

## 2018年9月中間期の営業の概況（2018年4月1日～2018年9月30日）

当中間期のわが国経済は、豪雨や震災など自然災害が相次いだことで、景気の回復は一時的に鈍化しましたが、製造業を中心とした企業の設備投資意欲は引き続き強く、雇用・所得環境の改善を背景として個人消費も緩やかに持ち直すなど、景気は回復基調が続きました。

地元香川県におきましても、西日本豪雨や猛暑の影響による業績下押しが一部の業種にみられましたが、好調な設備投資需要を背景に企業の生産活動が持ち直すとともに、雇用の引き締めや所得環境の改善を背景として個人消費も着実に持ち直すなど、県内景気は回復基調が続きました。

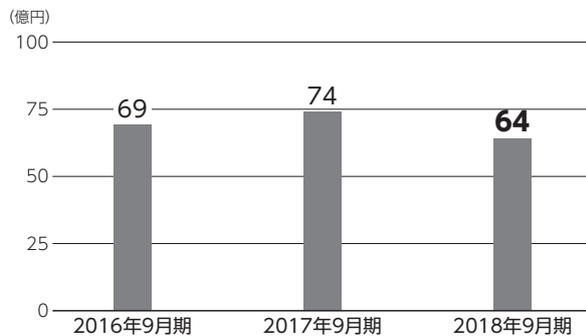
このような経済環境のなか、当中間期の業績は次のとおりとなりました。

### コア業務純益の推移

コア業務純益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金の減少による資金利益の減少などにより、前年同期比10億35百万円減少して64億10百万円となりました。

#### \*コア業務純益とは

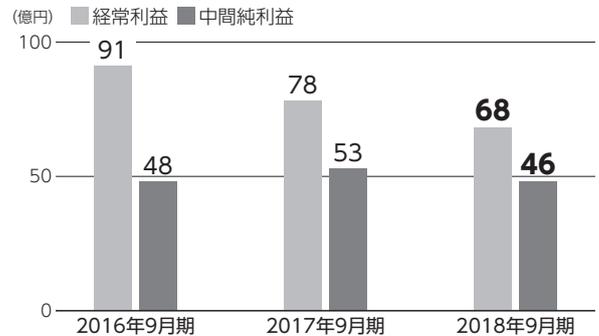
コア業務純益 = コア業務粗利益（資金利益 + 受取手数料など） - 経費  
銀行の本来業務からの利益を表す指標。



### 経常利益・中間純利益の推移

経常利益は、コア業務純益の減少などにより、前年同期比10億49百万円減少して68億43百万円となりました。

また、中間純利益は、前年同期比7億87百万円減少して46億9百万円となりました。



### 総預金・貸出金等の残高推移

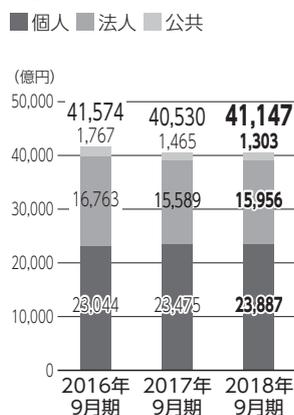
#### ●総預金等

公共預金は減少しましたが、個人及び法人預金が増加したことにより、当中間期末の総預金残高は、前年同期末比617億円増加して4兆1,147億円となりました。また、預り資産残高は、公共債の減少を主な要因として、前年同期末比149億円減少して3,470億円となりました。

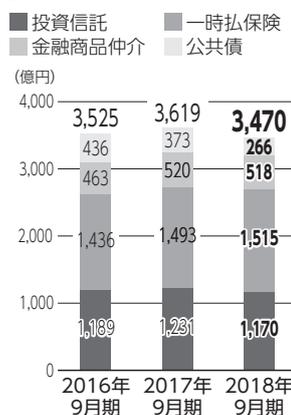
#### ●貸出金

大・中堅企業向け貸出金は減少しましたが、中小企業、公共及び個人向け貸出金が増加したことにより、当中間期末の貸出金残高は、前年同期末比430億円増加して2兆8,142億円となりました。また、住宅ローンを積極的に取り組んでまいりました結果、当中間期末の住宅ローンの残高は、前年同期末比235億円増加して5,497億円となりました。

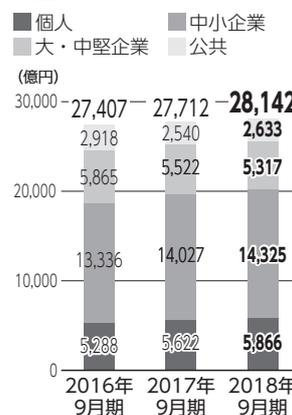
#### 総預金（預金 + 譲渡性預金）



#### 預り資産



#### 貸出金



#### 住宅ローン

